

報告

佐伯古文書の整理

その経過と、二つの提案など――

会員 平川 清

整理の経過

毛利家より佐伯市が寄贈きうけた「御用日記」や「佐伯文庫」などの古い文書や書籍を、市教育委員会の委員によって整理をはじめたのは、昨年(昭和二十一年)の七月からであった。暑い盛りの一日、初めて佐伯文化会館の資料室に足を踏み入れた私は、しばしばう然と立ちすくんでしまった。うなるような熱気のもつた室内には、ねずみ・ごきぶりのふん尿のまじった異様な臭気がたたまひ、ほこりにまみれた膨大な古本や古道具が、雑然と散在していたからである。これだけの物を、自分独りでどうやって整理したらよいのだろうか。不甲斐なくも左め息がこみ上げてきて、こんな任事を、気易く引受けられた自分の軽率さが悔やまれたほどであった。

それから、一兩日の間は室内にたたまずんでは眺め、眺めては思索したあげく、およそ次のような作業計画を立てたわけである。

- ア、消毒・殺菌
- イ、清掃・修理
- ウ、区分・分類・配列・収納
- エ、目録作製

の順序であった。もちろん週三日勤務の私の作業ペース

で、単年度にこれだけの仕事を完了することはとうてい無理だと予測できたが、ともかくも、やれる段階まではやってみたいと決意したのであった。

さて、いよいよ作業を開始した。まず資料室を密閉し、殺虫剤ヤクレット丸本を二回に分けて焚きこんだ。

次に高校生のアルバイト延べ十五人の加勢を得て、風通しのよい階下の広場でほこり払いをおこなったが、七月末から八月にかけての猛暑の中では、埃まみれ、汗だくの丈へんな作業であった。

秋風が立ちそめた頃から、相棒のない孤独な仕事になつてしまった。初めにひとあたり点検して、日記や書籍などの記録類・文庫本をはじめとした書籍類・毛利家の私蔵本、それに武器その他の器具類と四つに分けて、それぞれを一定の場所へまとめて配置した。これで乱雑だった室内はほぼ整頓され、落ち着いて仕事のできる環境には変わった。

そこで九月になると、まず最も作業量と要する「御用日記」から、本格的な整理にはいつたのである。五百余冊の和綴じの日記本を、一冊ずつ、一枚ずつ丹念にめくりながら、ごみ払いをしていったのであるが、比較的新しいもので百年、古いものになると三百年も昔に造本された「御用日記」は、その大部分は紙綴じにおかされており、中にはほろほろに紙質の変化したものの、紙と紙が膠着していて、むりに剥がせば破れてしまふものがあるのだ。十二月末、年の暮れとともにようやくこの作業も終了し、購入してもらったキヤビネット十四個の中の一応年号順に配列し、収納することができた。

次は、破損本の修理作業である。表紙の欠損しているもの、綴じの切れたもの、部厚に過ぎて分冊した方がよいものなどが、さっと百冊ほどはあるので、目下その作

業に取組んでいる。最中である。これがすめば、厚紙で帳をつくり、その肩に書名を記入したラベルを貼り付ける予定であるが、三月の年度末までには、帳づくりは後廻しにしても、ラベル書きで終ってしまいたいそうである。

公開・閲覧の見通し

これまで、私は佐伯古文書の整理について、その経過と現状のあらましについて報告したのであるが、この古文書について関心と期待を寄せられている史談会員各位は、きつとそんなことはもうよいから、われわれは一体いつから閲覧させるのか、その時期の見通しが知りたいと催促されるに違いない。そこで、さっそくその情報提供にうつりたいと思う。

本年度、すなわち昭和五十一年度には、市教育委員会としては、文化庁の補助を得て、予算額百二十万円の事業計画を立てるようである。そうすれば果段階での専門家の指導も受けられるし、地元有志の協力もえて、一気にこの整理事業を進捗させたい意向のようである。

事実ただ今やっている「御用日記」の整理が終れば、残った「佐伯文庫本」その他の書籍の分類・整理にはさほどの手数も時間も要しないはずなので、早ければ本年中に、遅くとも昭和五十二年四月からは市民に公開し、閲覧が可能だと思われる。もつとも一般の方の閲覧については、貴重文獻であり、古文書という特殊な性格のものであるだけに、その方法は検討せねばならないと思うが――

私の提案二つ

さて、これからいよいよ本題にはいっていくわけであるが、なにせこれまでになく紙面を使いすぎたので、簡

潔に要約して申し上げることにする。

その一つは、共同研究の推進したい。このことは、過日高木会長もある講演会のおいさつで触れられていたが、いま試みに「御用日記」の研究を例にとつてみると、この膨大な古文書を全巻を通読するにしても、テーマを設定して調査研究するにしても、少教有志だけの力では容易に消化しきれぬものでないだろう。したがって、その研究組織は当然史談会を中心とし、部外からも研究者を加えて、分業・協力の体制をしくことが肝要だと思ふ。なおこの際、郷土史研究の将来のことも考え合せ、幅広い年齢層にわたるよう配慮してほしいものだ。

その二つめは、古文書解読学習会の開催を提案したい。「御用日記」を研究するに当たって、その予備条件になるのは近世古文書の解読能力である。恥をしのいで言ってしまうと、私などたまたま「御用日記」のページをくつてみるのであるが、候文や、くずし字のかべがあつて満足には読めない。それで、最近古文書辞典や近世古文書解習など面白いものとめて学習してはいるものの、能率はさつぱりあがらず、古文書解読の独習はきわめて困難であることも痛感しているしだいである。会員の中心はすでに何回か講習会に出席され、実務経験も豊かな方が数人は居られるのであるから、初心者も含めた解読講習会を開催されては如何であるう。参加希望者も相当数いることは間違いないと思う。

この事は、けだし早い時期ほどが望ましい。講師・教材・会期・会場など、具体的にいふほど検討を要する事柄があるが、史談会幹部の方で緊急いただければまことに幸いである。地方史研究の底辺を広げ、この道の後継者を育成するためにも、ぜひお願いしたいものである。もしもこの提案がかなえられるならば、私など、言わ

ば元おこしいになるので、下働きの役目を引き受けること
に、おこさないことを申し添えておくしだいである。

編集室よりマエ書き

(おわり)

どうもご苦労なまじりました。費下りなすたお仕事、実は
史談会員が七八人努力奉仕でゆるうと前々から申入れまして
いたし、そのつもりでおりまいたが、でたらめにやってはか
えって後始末に困るし、勤めや家業の都合でとうとう
実施できませんでいた。

一応の整理がつきまわって何よりです。大変な量の文化財
が、一度にどつと佐伯市に寄せられまいたが、一つ模範的
な資料室として、今後運営に期待申します。

古文書学習のことご提案下さりありがとうございます。従来
県立図書館主催の古文書解説講習会にどんなか、今年度も計画し
たいよう。

お互いに、重宝な電子コピーによる古文書の複写の
際は、必ず何枚も余分にとつて、頑ち合つて、資料の研究
と読解に役立つよう。

(用茶)

大化講義会 「佐伯文庫と毛利高標侯」 一月二十五日開催

元佐伯中學校教諭 梅本幸吉先生と、その教え子 学術会の皆さんの協
力をいただいて別府からお招きし、文化会館で講演会も催した。

主催した史談会の会員、それに教子たち、合せて三十数名の出席があ
り、極めて有意義であった。先生から発表されるとこもが極めて多かつた。

小藩二方石の佐伯藩が、唐本、今冊を集めたこと、藩主高標侯の集書の見識
のすこぶる優れていたこと、その愛書 好學の態度の立派さ、まことに立派なまがて
頭がさがるばかりである。そしてその最終的変換本三本。冊ばかりが、今
佐伯市(市教委保管)のものとなっている。嬉しい限りである

佐伯文庫は佐伯市が天下に誇つてよい貴重な文化財である。(用茶)

特別寄稿

秋月橋門と賀来飛霞

— 佐伯藩における

佐田式大砲鑄造について —

客員 大隈 米 陽

(宇佐郡安志院町且尾一九〇)

佐伯藩の懸望により、佐田の賀来家では惟徳の末子重
八郎惟舒を、鑄造主任として出張させた。橋渡りに成功
した秋月氏より飛霞宛の書翰に、

愈々御安静煩し奉り候。先達ては鑄砲の事御相談申上
候也。御取計にて御従弟御遣し下され、千萬好都合即
反射炉に取掛り申候。重八郎君も同じく日出・立石等
に仕掛りも有之候故、廿日計も取掛へ上げ其上にて罷
帰半とて、朔日より突足に候。早く御再来下され候様
御催促下さる可く候。

一夜夜京師より急飛到来、五月十日より夷賊御撃拂ひ
と御定めに相成る趣此(先)末如何と存じ奉り候。江戸表
にては夷船四十隻、其一隻も港を出る事能はざる程、依
りて阻止有之との噂に御座候。実否未詳に候。

一橋公先月廿四日京師御駕御帰着に相成し由、或は云
江戸將軍は一橋公、京師の將軍は今の大樹と仰せられ
候と云ふ説もあり、飛語紛報未だ是非を知らざる也。
痛後御病人如何為され候也。重八郎君より承り候へば
御容体相変らずの由一茶の治る路有之候半と、英々も
祈り候事にての儀家内よりも宣布申上候 草々